

日経平均株価

2万1258円64銭

▼204円22銭(前日比)

TOPIX

1545.90

▼14.00(前日比)

2019

6/24

月曜日

発行元 株式会社 証券市場新聞社

〒542-0081 大阪市中央区南船場3-7-27 NLC心齋橋ビル6C

TEL 06-6105-1904 FAX 06-7635-7861

marketpress.jp



万博やIRでも経済発展

28日からG20大阪サミット開催へ



G20の会場となるインテックス大阪

大阪の会場となるインテックス大阪は、2025年大阪万博開催に向けて、大阪府知事吉村洋文が、

大阪府知事吉村洋文が、

日本初開催となるG20大阪サミットは、大阪市住之江区南港北の大阪国際見本市会場（インテックス大阪）で開催される。大阪に關しては、先の統一地方選での松井一郎大阪市長と吉村洋文大阪府知事

に続き、堺市長選でも永藤英機氏が当選し、大阪維新の会が「三冠」を達成、大阪全域の一体感が高まるなかでのG20開催は将来の副首都構想へ向けても大きな意義がある。

電鉄中之島線延伸計画が今後具体化する。G20の開催で世界的にも知名度が上がるなかで、大阪万博開催後のIR誘致でも大阪が改めて優位に立つことになりそうだ。カジノを含む統合型リゾートでは、紙幣や別機や

桜島線、中之島線延伸も

6月28日からのG20大阪サミットが間近に迫ってきた。主要国首脳会議（G7）に参加する7カ国やEU、ロシア、および新興国11カ国の計20カ国・地域が参加する国際会議の日本開催は今回が初めて。米中首脳会談の実現の有無など株式市場でもその動向が注目を集めているが、国際会議の開催地となる大阪にも熱い視線が向けられそうだ。G20大阪サミットが成功すれば、2025年国際博覧会（万博）やその後のIR（統合型リゾート）誘致にも弾みが付くことになろう。

日経平均日足チャート



硬貨計数機等の貨幣処理機大手で世界的にゲーミング向けで実績はある日本金銭機械（6418）、カジノ向け決済システムでテックファームホールディングス（3625）なども注目される。G20開催で知名度が更に上がるなかで海外からの観光客も更なる増加が期待される。ホテル運営では京阪ホールディングスに加え、ロイヤルホテル（9713）も注目されよう。

今週の動意銘柄

FBは急伸し新値

19年4月期計画超で着地

週明け17日、フリービット(3843)が急伸、年初来高値を更新した。19年4月期の連結決算を発表、売上高は従来予想の480億円に対して503億6500万円(前期比30・3%増)、営業利益で27億5000万円(前期比61・6%増)と計画超で着地した。



集合住宅向けインターネット接続サービスなどが牽引。20年4月期は売上高570億円(前期比13・2%増)、営業利益40億円(同34・2%増)を予想。

エイチーエム下方修正

17日、エイチーエム(3662)が急

落、年初来安値を更新した。19年7月期の業績予想を連結売上高で従来予想の400億円から370億円(前期比1・8%減)、営業利益で40億円から28億5000万円(同39・4%減)へ、年間配当を32円20銭から16円(前期32円50銭)へ引き下げたことが嫌気された。エンターテインメントとEC事業が苦戦している。

モルフォ6割増益

17日、モルフォ(3653)が一時ストップ高。19年10月期第2四半期累計の連結決算は、売上高の12億5300万円(前年同期比18・4%増)、営業利益2億9300万円(同60・4%増)

と大幅増収で利益が急拡大した。映像処理クラウドサービスやAI活用ソフトなど先端製品が戦力化。

サン電子海外出資受る

18日、サン電子(6736)が続騰し新値。イスラエルの連結子会社が同国のベンチャーキャピタルの投資ビークルから出資を受けると発表した。第三者割当による優先株を発行、調達資金約119億円をデジタ

業績への影響を懸念した売りがかさんだ。

クボテク蓄電システム

18日、クボテック(7709)がストップ高。この日発売の四季報でフリービットのライホイール蓄電システムが工場や発電所向けに展開模索と紹介されたことが材料視された。フリービットのライホイール蓄電システムは装置の内部にある

大型円盤を回転させ、電力を運動エネルギーとして貯蔵、必要に応じて回転力を再び電力に変換する。

TATERU業務停止命令

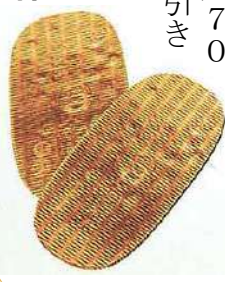
18日、TATERU(1435)が急落。国土交通省が東宅地建物取引業法に基づき、業務停止命令を出す方針を固めたことを受け、改めて

18日、シロークローバルホールディングス(3563)が続急落。元気寿司(9828)との資

正直いいさんの株で大判小判

21日の東京市場は3日ぶりの反落です。利下げへの期待から前日の米国株が上昇した流れを受け、強含んで始まった後、円高が重しになり、値を崩しました。ニューヨークタイムズ紙が、「トランプ米大統領がイラン攻撃を承認した数時間後、こと地政学リスクの高まりも意識され、1ドル107円トビ台まで円高が加えられた」と報じた。後場から下げ場からも、緩急あり、下値は限あり、下値は限末要因もあつて柄が目立っていいを出しづらく、中小型に資金が打診買いのプロレド(7034)が上げ幅を拡大。引き続き銘柄を絞り込んで内需ダイフェンシブ系の小型成長株で値幅を狙う考えです。花咲翁

正直いいさんの株で大判小判



スシロー統合協議中止

19日、スシロー(9828)との資

本・業務提携を解消、経営統合に向けた協議を中止すると発表した。提携解消に伴い、元気寿司の親会社が保有する同社株式(949万株)のうち660万株を売り出すことから、需給面も懸念された。元気寿司も大幅安。

企業観察

東レ (3402)

達成確度高い今3月期計画

東レ (3402) は5月24日に付けた年初来安値を底に出直りの動きを鮮明にしてきた。20年3月期の連結業績で営業利益1600億円 (前期比13・1%増) と2ケタ超の増益を見込んだことが株価反転のきっかけだが、米中通商問題など不透明な外部環境を考慮しても達成確度が高いとの判断が買いの根拠になっている。

セグメント別の営業利益予想を見ると、先行投資負担で落ち込んだ炭素繊維複合材料が220億円 (同91・3%増) と急回復、バッテリーセパレーターや車載分野の拡大が続く機能化成品が810億

炭素繊維9割増益も上振れ余地

円 (同19・6%増) と伸び収益をけん引。環境・エンジニアリングも水処理膜を世界規模で拡販することで140億円 (同14・8%増) と2ケタ超の増益を見込む。機能化成品はスマホ向けに懸念が残るが、炭素繊維は「航空機向け増産体制が整い、買収したオランダのTenCateとの連携効果もこれから」(会社側) で、上振れが期待できる状況。一方、繊維は前期に増販のため在庫を積み増した影響を加味して700億円 (同3・0%減) と厳しく見積もったが、スパンボンドや人工皮革の新設備が立ち上がってくる。

20日、タツミ (7268) がストップ高。「金属部品に樹脂部品も組み合わせた電動ブレーキ部品の量産化を目指す」との報道が材料視された。同じミツバグループで樹脂成形が得意なモミモと連携、金属加工から樹脂成形まで一貫して手がける。付加価値を高め、利便性向上による納入先の拡大につながる

20日、ピアズ (7066) が東証マザーズ市場に新規上場、公開価格3620円を51・9%上回る。5500円で初値をつけた。キャリアショップを中心に研修コンサルティング、セールスプロモーションなどを手掛ける。

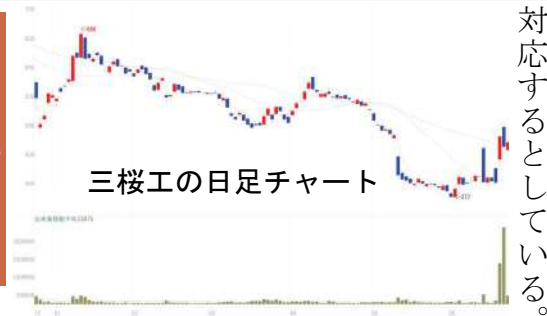
業化と収益貢献を期待した買いを集めた。公開価格52%上回る

ピアズの初値

三桜工ストップ高 全固体電池検証と報道

報道が材料視された。米スタートアップと次世代電池「全固体電池」を共同開発し、年内にも試作品を検証。ガソリン車からEVへ変わる流れに

19日、三桜工業 (6584) がストップ高。「電気自動車 (EV) 向けの車載電池の製造に乗り出す」との



公開価格5.8%上回る

19日、Sansan (4443) が東証

対応するとしている。

マザーズに新規上場、公開価格4500円を5・8%上回る4760円で初値が生まれた。同社は法人向け名刺管理サービス「Sansan」及び個人向け名刺管理アプリ「Eighth」を提供している。

公開価格0.3%上回る

日グランの初値

19日、日本گران (2976) が札幌アンビシャスに新規上場、公開価格750円を0・3%上回る752円で初値が生

まれた。不動産分譲、賃貸、関連事業を行う。

押し目買いの好機

先週の東京株式市場は続伸しました。週半ばに発表された米FOMC声明では、先行きの不確実性が增大しているとして早期利下げの可能性を示唆しました。このことでNY株式市場が急騰し、20日にはS&P 500指数が史上最高値を更新。一方、米10年債利回りが一時2%を割り込み、ドルが全面安展開となりました。ドル円は107円攻防となり、ユーロ円も121円割れまで円高が進行し、先週末の日経平均は円高を嫌気する展開となりました。

テクニカルチャートでは日経平均は60日線や一目均衡表・雲下限に上値を抑えられた格好です。今週はG20が大阪で開催されますが、米中首脳会談に大きな期待はなく、時間軸から来月のFOMC (7月30日、31日) までは崩れないものと思われま



日々勇太郎

転ばぬ先のテクニカル

タツミは電動ブレーキ報道

今期35%営業増益

益7億2700万円（同30.8%増）と大幅な増益で着地している。

グループ収益力を強化

22年3月期売上高447億円へ

グルメ杵屋
(9850)

グルメ杵屋（9850）は主力ブランドの「杵屋」を筆頭に顧客のニーズに合った複数のうどんチェーン店を展開、韓国料理やタイ料理などのアジアレストランや機内食と業務用冷凍食品の製造など食に関する様々な分野に進出している。

レストラン事業では新たな顧客層の開拓につながるため、ラーメン・焼肉業態を有する壺番亭本部の株式を昨年10月に90%取得し子会社化した。これによりフランチャイズ店舗を含む28店舗が新たに戦力化。人手不足による人件費上昇の影響や大型台風等自然災害の影響による売上減はあるものの、既存店も好調で、19年3月期は連結売上高41

20年3月期は売上高411億9800万円（前期比0.4%増）、営業利益9億7900万円（同34.6%増）を計画。加えて、22年3月期を最終期とする中期経営計画を策定。ホールディングス機能強化によるグループ収益力の強化や投資案件への積極的な取り組み、グローバル展開、人材育成と職場環境の改善に取り組み、目標最終期に売上高447億2100万円を目指している。



グルメ杵屋の日足チャート

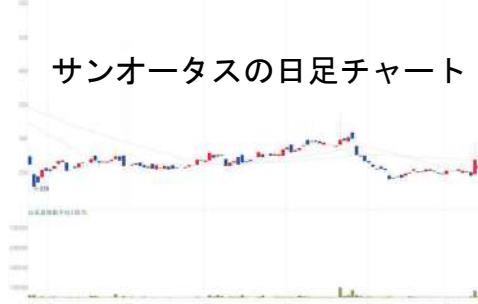
特選銘柄

0億4700万円（前の期比1.4%増）、営業利

サンオータスがS高

20年4月期2.5倍営業増益予想

20日、サンオータス（7623）が



サンオータスの日足チャート

4月期の業績予想を発表。連結売上高で310億円（前期比1.9%増）、営業利益で1億8000円（同2.5倍）と大幅な増益を見込んでいます。エネルギー事業では、国内元売りの統合による環境の変化やライフスタイルの変化に柔軟に対応

コスモBはタンパク質受託

することで、適正口

週末21日、コスモ・バイオ（3386）がストップ高。鶏卵の卵白中に、目的とする有用なたんぱく質を大量に生産する技術を用いて、自社製品の製造に加えて、タンパク質の受託製造事業を開始すると発表した。鶏卵の卵白中に目的とする有用なたんぱく質を大量に生産させるために「ゲノム編集」した特殊なニワトリを用いて、ユーザーが必要とするタンパク質を大量製造・精製して納品する。従来の製造技術と比べ、

シンクレイヤ出尽くし

21日、シンクレイヤ（1724）がストップ安。未定としていた19年12月期の連結業績について売上高97億円、営業利益6億円を予想した。決算期変更と比較はないが、新4K8K衛星放送対応などの設備投資需要増を背景に売上高が堅調に推移、上場来最高益となる。ただ、株価はここ1カ月で3倍に急騰しており、当面の材料出尽くし感から利益確定売りが殺到した。

今週の動意銘柄

金を確保、SS店舗の営業時間の見直しやカーライフのトータルケアなど整備事業との連携を深め、安定した収益を目指す。

企業レター

安定的業績拡大で応える eスポーツ事業への取組みに意欲

カプコン

月期の連結業績予想については売上高で850億円（前期比15・0%減）、営業利益は200億円（同10・2%増）、純利益は140億円（同11・5%増）と2ケタ増益を見込んでいる。ダウンロード（DL）販



カプコン
(9697)

が6月17日に大阪市中央区の大阪キヤッスルホテルで株主総会を開催した。辻本憲三会長は総会の席上、成長分野や重点部門に経営資源を投入し、安定的な業績拡大に意欲を見せた。

今20年3

「eスポーツの企画、開発運営」を加えることでeスポーツへの取り組み強化にも意欲を見せた。

売比率が高まること
で販売単価が下がるため減収となるものの、その半面、利益率が向上し、2ケタ減収ながらも営業利益で7期連続増益、純利益で3期連続の最高益を見込んでいる。

業績と株価の現状に関する株主からの質問に対して辻本会長は「翌期に業績が大きく落ち込む経営はしたくない。安定的な業績拡大と配当を通じて中長期的に株価が上昇することが株主の応援に応えることになる」とし、実際に5年以上長期保有している株主には業績と連動して株価が上昇し、「期待に応えている」とした。

「モンスタースターハンター…ワールド」は19年3月期の販売本数の大半がダウンロード販売で、

今期は秋の大型拡張コンテンツ投入で更なる販売増による利益拡大が期待されるうえ、自社内での開発力強化で、特に海外での展開に注力。加えて、定款に

グルメ杵屋

グループ収益力を強化 売上高447億2100万円目指す

企業レター



グルメ杵屋
(9850)

国料理やタイ料理などのアジアレストランや機内食と業務用冷凍食品の製造など食に関する様々な分野に進出している。レストラン事業では新たな顧客層の開拓につながるため、ラーメン・焼肉業態を有する老舗

亭本部の株式を昨年10月に90%取得し子会社化。これによりフランチャイズ店舗を含む28店舗が新たに戦力化。人手不足による人件費上昇の影響や大型台風等自然災害の影響による売上減はあるものの、既存店も好調で、19年3月期は連結売上高410億4700万円（前の期比1・4%増）、営業利益7億2700万円（同30・8%増）と大幅な増益で着地している。

20年3月期も売上高411億9800万円（前期比0・4%増）、営業利益9億7900万円（同34・6%増）と大幅増益を計画。加えて、22年3月期を最終期とする中期経営計画を策定。ホールディングス機能強化によるグループ収益力の強化や投資案件への積極的な取り組み、グローバル展開、人材育成と職場環境の改善に取り組む、目標最終期に売上高447億2100万円を目指すとしている。

チャートから読む 騰落銘柄

サイバーエージェント(4751)



目先のには6月4日の3790円で底打ち感。50日線抜けから5月の下落前の揉み合いゾーンである4500～4600円近辺までの戻りを期待。AbemaTVの赤字幅縮小からネット広告増に期待。

朝日ネット(3834)



大勢上昇トレンドのなか短期急騰局面迎える。月足は6年以上にわたる400～500円台半ばのボックス相場を上放れ、動きが一変。内需高成長銘柄の一角で好需給も株価を押し上げ、青空相場を一段高へ。

武蔵精密工業(7220)



全般反騰場面でも戻り鈍く5月10日にザラ場で付けた年初来安値1240円割れを意識。ホンダの生産台数見通しの引き下げによる業績下ブレリスク根強く、16年以來の1000円割れも懸念。

GameWith(6552)



マド空け急落後も5日線に上値を抑えられるかたちで下落、上場来安値更新が続く。押し目買いに信用買い残の整理が進まず需給も重荷。人件費負担増に伴う一段の収益悪化が懸念され、下値のメド立たず。

潮流

安倍総理の「3つの敵」

消費増税行う財務省は国民の敵

marKet / bAnk

安倍総理は「自分には3つの敵がいる」と述べた。

1つ目の敵は朝日新聞

に代表される、いわゆる「反日左翼」。この勢力は自分が何をやっても常に敵であるという。

2つ目の敵は「財務省」。安倍総理は緊縮財政が日本のデフレ脱却を妨げていることを理解している。それならなぜ財政拡大路線に舵を切れないのか。米国ではトランプ大統領のように自分の判断で政策を決定し、閣僚はその命令に従い、大統領の意思がスピーディーに反映される。日本の総理大臣の権力は一見強そうに見えるが、安倍総理の権限が及ぶ範囲は限定されているのだ。物事を動かすには衆参国議員を懐柔し、説き伏せ、味方に付け、多数派を構成せざるをえないのだ。財務省はその点をよく理解している。

財務省は数百人体制で国會議員に財政破綻論をすり込んでいく。さらにはジャーナリスト、評論家、財界人などにも説明に回り、財政破綻論を吹聴させている。その説明の裏に消費増税の必要性を国民に浸透させ、法案を可決させることが最大の目的なのだ。2014年に消費増税を行ったことで日本の景気は相当落ち込んでしまった。増税による悪影響は軽微とってい



た財務省は全く見当はずれであった。その様な失敗にも関わらず、10月に消費増税を行うという。政府・日銀が掲げている消費者物価2%という目標は到底無理なことにははつきりしている。国民や企業からお金を

吸い上げる消費増税を断行したい財務省は国民の敵でもある。

そのことを安倍総理も分かっているが一人で立ち向かっても無理だという。安倍総理は自民党の国會議員から「増税反対・財政出動が必要」といった声が上がらないことには防ぎようがないという。これが今の日本の政治である。

最後3つ目が国際金融資本。いわゆるグローバルズムだ。イギリスのロスチャイルド、ロックフェラー、モルガンなどのユダヤ資本を中心に欧米のヘッジファンドが動かす巨額な資金が世界の金融市場を席卷している。日本の株式市場は外圧によって株価指数先物を導入してからヘッジファンドの売り崩しによって株価暴落を引き起こした。

安倍総理がいう3つの敵こそが我々国民の最大の敵であることを知ることだ。潮流銘柄は、ビーロット(3452)、アルファシステムズ(4719)、トラザクション(7818)。



岡山 憲史氏(株式会
社マーケットバンク代
表取締役)のプロフイ
ル

1999年2月日本初の資産運用コンテスト「第一回S1グランプリ」にて約1万人の参加者の中から優勝。直近では2017年1月に始まった夕刊フジ主催の「株・1グランプリ」において優勝。1カ月間における3銘柄の合計パフォーマンスでは15.5%と断トツの結果。週刊現代、週刊ポスト、夕刊フジ、ネットマネー、月刊カレントなど幅広く執筆活動を行う。現在、個人投資家に投資情報サービスを行う。http://marketbank.jp

ヘッジFが動かす巨額資金

日経平均上値指向続く

高野恭壽の株式情報 **これでどや!!**

株式市場新聞の名物コーナーが復活!



高野恭壽(たかのやすひさ)氏 1949年生まれ、大阪府出身。株式市場新聞大阪支社長、株式新聞社大阪本社代表を経て株式評論家として独立。講演会のほか、ラジオ大阪「タカさんの新鮮・株情報」をはじめTV、ラジオに多数出演。「株式投資30カ条」など著書も執筆。

先週の東京市場は一気に戻す展開となりました。20日の東京市場は前日の大幅高の後を引き継ぎ、日経平均は2万1400円台にいきなり乗せるなど堅調にスタートしました。電機も前日の大幅高となった後もしつかりで寄り付きましたが、その後は反落する場面になりましたが、売りましたものを消化後には上値を追い始め、プラスに転じるなど続伸する銘柄がみられました。後場に入ると円相場が107円台半ばまで高くなつた場面でも電機など外需系は自動車系を除き堅

調さを維持していました。また、海運株や化学などの素材も上値を追っていました。内需系も野村HDはじめSBIなど証券株が続伸し、新たに不動産株も上値を追いはじめました。反面、強い動きが続いていました第一三共が反落に転じ、日本新薬も大きく下落しました。物色対象が変化したことで当面、医薬品は見送られることになりそうです。円高でも日経平均は上値を追い5月20日高値を抜き、2万1462円と128円高で終えました。材料系も日水が上値を追い、大紀アルミも高値を付けていました。日経平均は続伸し2万1500円に後一步と迫り、その後のナイトセッションの225先物では2万1500円に乗せていきます。月末に向かうことで6月最終週では一時的に反落する場面も考えられますが、その際には銘柄を絞り込んで拾う姿勢を強めることで成果を挙げられるとみています。G20の米中会談の結果次第では2万2000円台に乗せていくと予想されます。

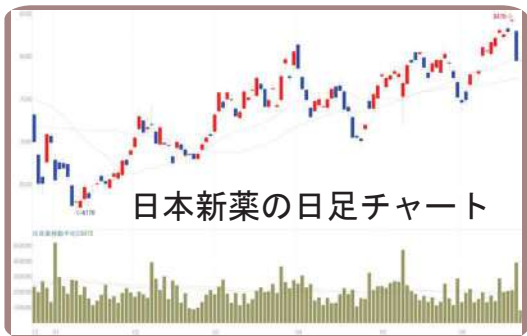
米中会談次第で2万2000円

千代田化工建設(6366)は調整売りで値を消す場面となりましたが、まもなく上値を追うとみています。野村ホールディングス(8604)が19日に大幅高となり20日も値を保っていました。大幅な経営改革を好感して買われ始めたことになり、新たに注目する必要があるようです。百貨店株はいずれも値を保っていました。引き続き注目を。

とみています。医薬品では大塚ホールディングス(4578)が反発するなど、ほかの医薬品と違った動きになりました。恐らく、今後も上値を追っていくものと予想されますので強気で対処を。

アンジェスに次ぐ医薬品の大化け候補として期待の**日本新薬(4516)**は外資系の一部が業績見通しを下方修正したために大きく下げましたが、核酸医薬品の日本第一号候補であり、7900円割れ辺りが下値のメドとみています。再び買われる可能性が高いだけに悲観する必要はないとみています。

野村ホールディングス(8604)が19日に大幅高となり20日も値を保っていました。大幅な経営改革を好感して買われ始めたことになり、新たに注目する必要があるようです。百貨店株はいずれも値を保っていました。引き続き注目を。



日本新薬の日足チャート

星野三太郎の株街往来

～株主総会シーズン～

今年も株主総会が27日前後にピークを迎える。毎年、取材で数社の総会を見学して、可能な限り個人的な保有株の総会にも出席。長期保有の銘柄とは別に、話題になりそうな企業を短期保有して毎年、様々な総会に参加するように心がけている。

出席率の高い企業は自社商品などお土産を株主に用意している企業で、お土産だけ貰って総会に参加しない株主も少なくない。取材で見学している総会の中には、毎年、必ず「何故、お土産を用意しない」と質問を受ける企業があるが、株主には配当や優待で還元しているから、参加者が少なくなっても、業績や今後について真剣に考えてくれる株主を求めている。株主総会の理想像が何かは分からないが、かつての「シヤンシヤン総会」とは異なり、どの企業も特色を出している。

加えて投資先企業の経営陣に積極的に提言をおこなうアクティビストの台頭で、どの上場企業経営者も楽観的な総会を行えなくなっている。アクティビストの真似はできないまでも、企業に提言でくるくらい個人投資家も目的意識を持つて出席できればと思う。



New product

ナカバヤシ しおりフィルムフセン発売 手帳・ノート・本にブックマーク



しおりフィルムフセン

ナカバヤシ(7987)は手帳や本などに挟むブックマークとしても活用できるPET素材のフィルム付箋「しおりフィルムフセン」を7月下旬より全国で発売する。書籍などに挟まれている“スリップ(短冊)”をモチーフにしたフィルム付箋で、手帳や本、ノートなどに挟んでブックマークとして使用しながら、付箋が必要な時にさっと使える。丈夫で破れにくい半透明のPET素材なので、資料やノートなどに最適。ラインアップはピンク・ブルー・イエロー・アソートの4品番で、ピンク・ブルー・イエローは6サイズ120枚入り、アソートは3色3サイズ計180枚入り。価格は税別400円。



LisB社に出資

アズワン

AI-FAQボットで働き方改革

はLisB(東京都千代田区)に出資する。LisB社は建設業や小売業など様々な業種で1500社以上に採用されているビジネスチャット「direct」や、利用されるほど賢く使いやすく進化するFAQソリューション「AI-FAQボット」など、「現場の働き方改革」を推進するソリューションサービスを提供している。LisB社が開発・提供するIT技術を積極的に利用していくことにより、理化学機器の販売やサービス提供の分野で、販売店や研究者をはじめとする顧客の利便性向上やソリューションの提供に、自社内での業務の効率化を推進していく。

企業レター

アズワン(7476) 会社。今回の出資を通じ、ビジネスパートナーとしてLisB社との提携関係をより深化させていく。

日経225先物日足チャート



敏腕先物ディーラー ハチロクの裏話

一旦は調整局面か？

G20控え要人発言に関心

先週の相場は上値の重たさも感じられた今週大阪で行われるG20で「米中首脳会談が行われる」との報道や20日のFOMCの声明で早期に金利が引き下げられるとの見方で買い安ん感が広がり、日経平均は2万1500円手前まで戻した。しかし、為替が107円04銭(21日午前)まで円高が急激に進み指数の買戻しが終わると失速、

米国のS&P500が20日に史上最高値を更新するなど米国は好調であり、日本株も連れ高していたが、売買代金は2兆円を越えず閑散、指数だけ戻した感じである。今週は週末にG20を控え、要人達の発言に関心が集まろう。何と言っても「米中首脳会談」で貿易競争の出口が見えてくるのか、注目されるどころだ。

チャートのトピックスはこの上昇過程で3空を形成している。6月5日(2万44円57銭)と2万64円15銭(10日)と2万907円77銭(2万924円19銭)、19日(2万1153円65銭)と2万1213円43銭)。格言的には「三空は売りむかえ」である。NYに連れ高する形で上昇してきたが、一目均衡表の雲の下限(2万1514円処)に跳ね返されている状態となっている。

更なる上昇があるにしても一旦は調整局面となる。

円高が1月以来の水準に入っており、仕掛け的な売りが入れば再び2万1000円を割ってくるケースも考えられそうである。下値抵抗ラインは転換線(2万1211円)、25日移動平均線(2万1052円)が上げられよう。それらを割ってくると2番目の窓埋め(2万907円77銭)が意識される展開となる。一方、上値抵抗ラインは雲の上限(2万1557円)、抜ければ5月7日の窓埋め(2万1875円11銭)も視野に入ってくる。 (ハチロク)

編集後記

近畿はまだ梅雨入りしていませんが、さつきまで晴れていたのに突然、強い風が吹き大粒の雨が降る日があった。日本海に延びる梅雨前線に向かって湿った空気が流れ込み、大気の状態が不安定になってきているから、週明け以降も多少晴れ間があっても、ヒヤッとした風が吹き始めたたら、天候の急変に注意が必要という。さて、東京市場は急激な円高に見舞われながらも、中小型株の個別物色は健在だった。ただ、利益確定売りにも高値から急落するケースも目立ち、変調の兆しをしっかりとキャッチしたい。

昇過程で3空を形成している。6月5日(2万44円57銭)と2万64円15銭(10日)と2万907円77銭(2万924円19銭)、19日(2万1153円65銭)と2万1213円43銭)。格言的には「三空は売りむかえ」である。NYに連れ高する形で上昇してきたが、一目均衡表の雲の下限(2万1514円処)に跳ね返されている状態となっている。

今週のスケジュール

- 21日 米5月中古住宅販売件数(23:00)
- 24日 独6月Ifo景況感指数(17:00)
- 25日 4月24・25日開催の日銀金融政策決定会合議事要旨
5月企業向けサービス価格指数(8:50)
米5月新築住宅販売件数、米6月CB消費者信頼感指数(23:00)
- 26日 通常国会期末
- 27日 5月商業販売統計(8:50)
米1-3月期GDP確報値(21:30)
- 28日 6月19・20日開催の日銀金融政策決定会合の「主な意見」
5月失業率・有効求人倍率(8:30)
5月鉱工業生産(8:50)
G20大阪サミット(~29日)
米中首脳会談?/日米首脳会談?

【ご注意】証券市場新聞は投資の参考になる情報提供を目的としており、投資の勧誘をするものではありません。記事には業績や株価、出来事について今後の見通しを記述したものが含まれていますが、それらはあくまで予想であり、内容の正確性、信頼性、予測的的確性を保障するものではありません。当紙が掲載している情報に基づく投資で被らねたいかなる損害について、当社と情報提供者は一切の責任を負いません。投資についての決定はすべてご自身の判断、責任でお願いいたします。